

＜世界救世教＞は岡田茂吉により一九五〇年に設立された教団である⁶⁾。ここでの分析対象の「世界救世教」と「MOA」とは、＜世界救世教＞内部の派閥団体である⁷⁾。この二つの団体は、一九八四年の＜世界救世教＞の教団改革運動の際に、方針をめぐり分裂した⁸⁾。現在、この二つの団体は、まったく互いに交流がなく、個々別々の活動をしており、実質的には「分派教団」であると言ってもいいだろう⁹⁾。しかしながら、確かに今日個々別々の活動をしたり、とくに後述するEM (Effective Micro-organisms) をめぐっては見解に相違はあるものの、その活動の基軸にあるものは教祖の岡田茂吉の教えである¹⁰⁾。したがって、次に岡田茂吉の教えについて見ていくことにしよう。

岡田茂吉の教えを端的に言い表すとすれば、「霊主体従論」を主としながら、この地上から「病・貧・争」といった悪をなくし、地上天国を実現していくことを説いたものである。「霊主体従論」とは、世界は現象界（目に見える世界）と霊界（目に見えない世界）によりなりたち、この二つの世界は表裏一体の関係にあり、霊界こそ現象

界の本質をなすとする考え方である。つまり、現象界で生じる事象は霊界に端を発しているとする。このことから現象界における人間の病気や戦争、天災などの自然現象は、霊界（もしくは霊体）に原因があるとされる。霊体は本来は透明であるが、怒りや邪悪な行為などの悪の行為によって曇りが生じ、それが現象界の肉体に反映し毒をつくりだして、病気などが生じるとされている。しかし、病気という現象そのものが否定的に捉えられているわけではない。その現象自体は霊の曇りを示し自己を見つめ直す機会を提供するからである。そして、人間（万物）には自然浄化力が備わっており、熱や鼻水といった病気現象は「自然良能力（浄化力）」の現れであり、その良能力によって霊的な曇りも解消されると捉えられているからでもある。この自然良能力を促すための理論ないし方法として「薬毒論」と「浄霊」がある。「薬毒論」と「浄霊」は医学に対しての批判でもある。医学は浄化作用を悪化としてみなし、薬物などの投与する。このことによって、一時的に回復はするかもしれないが、浄化作用を抑制してしまい、本質的な解決にはならないばかりか、人間にとって異

- 6) 岡田茂吉は自分の教団を立教する以前に、大本教とも関わりがあった。一九三一年に天啓をうけ、一九三五年には大日本観音会を発足させた。しかし、戦前においてはその他の宗教教団と同様に、弾圧を受け、あまり積極的には活動できなかった。戦後、一九四七年に日本浄化療法普及会として再出発し、その後同年に日本観音教団、日本五六七教会を設立した。そして、一九五〇年に日本観音教団と日本五六七教会を発展的解消して世界救世教（＝世界メシア教）を設立、そして一九五七年に改名して現在の＜世界救世教＞へといたる。補足的に述べておくと、この二つの教会（教団）が＜世界救世教＞内部の二大派閥となり、教団内対立の温床となる。ちなみに、岡田茂吉は一九五五年に亡くなる。
- 7) ＜世界救世教＞には多くの分派教団がある（図1参照）。『新宗教事典』によれば、こうした分派教団が生じた背景にはいくつかの要因が関連して起きていることが指摘されている。第一に教団発足当時、中央集権的な組織構造ではなく個々の分教会の独立性が高かった組織構造の問題がある。この要因を軸として、第二に教祖の岡田茂吉が亡くなった後、教団に求心力のある人物を欠いたことが、第三に一九七〇年に推進された教団の組織構造の中央集権化（「一元化」）への反発があり、これらが関連して分派教団を生じさせている。このことは、岡田茂吉が亡くなった直後と、組織構造の中央集権化（「一元化」）時期に、分派教団が多く生じていることから判断できる。
- 8) 「世界救世教」＝新生派が主張した教団改革とは、第一に「教主中心主義の確立」、第二に「金銭疑惑の解消」、第三に「派閥の解消」であった。少し補足すると、岡田茂吉の死後、＜世界救世教＞には「総長」という地位ができ、その「総長」が実質的には教団運営を行っていた経緯がある。少なくともある一面においては新生派の教団改革運動はこれの是正をめざしていた。しかし、結果として派閥間の対立の枠を超えることができなかったように思われる。
- 9) 筆者が両教団に行った聴き取りによる。また、両教団とも各々教典を編纂していることから実質的には分裂していると言える。なお、名前を継承している点で、「世界救世教」＝新生派が正統性をもち、「MOA」が分派教団であると言えるかもしれない。ただし、形式的に分裂しているかどうかは不明である。分かれるには「法人資格」といった法律上の問題を解決する必要があり、形式的には分裂していないかもしれない。
- 10) ここから、教義の捉え方が派閥対立を引き起こしているように見えるが、問題はそう単純ではなく、注6) 7) 8) で述べているように、＜世界救世教＞設立当時から派閥問題はあったし、また「一元化」の際のしこりも派閥問題に影をおとしているようである。